2024 年度事業報告書

2024 年　4 月　1 日から　　2025 年　3 月　31 日まで

NPO 法人アカツキ

事業の実施と成果に関する事項

①非営利団体・市民団体及び社会的企業等を対象とした、対話と議論を共に育むコンサルティングと、その技術を社会に広く展開するための販売事業

事　業　内　容	実施 日時	実施 場所	従事者 の人数	受益対象者 の範囲及び 人数	事業費の 金額(円)
①-1）ファンドレイジング・NPO 法人事務・内部コミュニケーションに関する伴走型コンサルティング支援	通年	福岡県 佐賀県 長崎県 大分県 山形県 東京都 神奈川県 愛知県 鳥取県	4 人	NPO 11 団体	6,174,021
①-2）コラボステーション福岡の専門相談及び研修会等企画・実施（福岡県委託）	通年	福岡県	5 人	NPO 77 団体 （延べ） 個人 83 人	

①-1）クライアントが全国に広がり、福岡県内も含めてメインはリモート対応となった。それぞれ年に 1～3 回ほど現地に伺った。活動分野はフードバンクや子どもの居場所事業が多かった。
①-2）職員の能力を活かした専門分野ごとの相談会を設計した。それぞれ、ネーミングと実施形態によって集客のハードルが変わることが確認されたため、今後に活かすこととする。

②市民社会を担う人材及び団体の育成にかかるセミナー・研修・ワークショップ等の実施とともに、互いに支え合うコミュニティを構築する事業

事　業　内　容	実施 日時	実施 場所	従事者 の人数	受益対象者 の範囲及び 人数	事業費の 金額(円)

②-１）心理的安全性・伴走支援・事務局運営・動画活用等に関するセミナーやワークショップの開催、講師登壇	通年 ９回	福岡県 大分県 鹿児島県 東京都 全国	３人	NPO の理事・職員、会社員、行政職員等　約 220 人	1,823,869
②-２）解決しない読書会／勉強会　オンライン番組配信	通年 24 回	全国	３人	一般市民 約 1100 人 （延べ）	
②-３）市町村センター等機能強化支援事業（福岡県委託）	７・11 月	福岡県	２人	福岡県内の市町村センター 64 名	

②-１）これまで依頼の多かった、広く募集し希望者が申し込むセミナーから少しずつ変化が起き、団体管理職からの依頼として、その内部向けにマネジメント等の研修を行うことが増えた。
②-２）アカツキがコンサルティングに活用する、会話の技術や参考になった本を、内部研修を兼ねて視聴者に紹介する YouTube 配信を行った。月１回×２本のペースで収録・公開した。
②-３）福岡県の各市町村センター職員向けに、集合型の研修として交流も含めながら、NPO や協働の基礎、また実際の事例を紹介した（例年、相談事業に含まれていたものが別枠扱いとなった）。

<u>③市民活動とそれらをとりまく社会環境の調査・研究及びその成果物の発信・出版事業</u>

事　業　内　容	実施 日時	実施 場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(円)
③-1）「ふりかえり評価」普及啓発用マンガ冊子送付	８月	全国	２人	NPO の理事・職員・監事、支援者、助成機関等 約 40 人	268,909
③-2）福岡の NPO 法人・所轄庁対応についての調査	4～9 月	福岡県	４人	福岡県内の NPO 法人、またその所轄庁	

③-１）「ふりかえり評価」の、役割や実施方法について解説したマンガ冊子を、開発の寄付キャンペーンにご協力くださった方へのリターンとして、またアカツキと近しい関係者に郵送した。

③-２）福岡県内の所轄庁対応に対する、評価／クレーム／ニーズ等について、Web アンケート調査を実施し、27 件の回答があった。分析した結果を所轄庁に渡すと共に、ネット上に公開した。

④市民活動団体の経営を支援するための助成金拠出及びそれに資する財団・企業・自治体等と連携した助成プログラムの開発・改善事業

事　業　内　容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(円)
④-１）立ち止まり対話するための助成金「AKBN（アケボノ）ファンド」による助成金拠出	通年	福岡県 鹿児島県 北海道	３人	NPO ４団体	1,506,361
④-２）他助成機関に対するプログラム開発と改善支援	通年	福岡県 兵庫県	３人	助成５機関	

④-１）７期目となって、採択される＝立ち止まり対話する取り組みの理解と実践の解像度が高い団体の傾向（女性がメンバーの中心であること、活動が地域密着型であること等）が見えてきた。
④-２）AKBN ファンドを参考にした助成プログラムが兵庫県に誕生したため、訪問してヒアリングを実施した。審査委員等は代表交代に合わせて、順次引き継ぎを行なっている。

＊組織体制
・週１回の事務局ミーティングとは別に開催する、月１回対面での事務局共有会を前年度から持続しており、団体の歴史やコンサルティングの知見を共有することができた。
・事務局メンバーで、事務の勉強会を月１回実施。アカツキのサービスの一つである、「事務診断」の考え方やノウハウ、ケースを共有することができた。
・理事メンバーの日帰り合宿において、事業や財務の計画とは別に「人権」や「差別」をテーマにした、深い議論と対話をすることができ、今後の経営方針に関する判断基準を持つことができた。
・「立ち止まり対話するための助成金・AKBN ファンド」について、2020 年度から毎年継続して 30 万円の大口寄付を頂戴していていることに加え、2024 年度は古くからの支援者から 39 万円の個人大口寄付を頂戴することができ、理事からのお礼動画をお送りした。
・2025 年度から消費税の課税事業者となるため、課税事業者届出ならびに簡易課税制度選択届出を提出し対応をすすめた。